

2019（令和元）年度（確定版）および2020（令和2）年度（速報版）
知床半島ヒグマ管理計画の目標に関する状況

○知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況（2020年6月末時点）

計画期間（2017（H29）～2021（R3）年度）

本計画の目標	目標値	結果						主な対策
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする。（注4）	75頭	10頭	21頭	15頭	14頭	0頭		【平時】 誘引物の除去、侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2、6、32、35、37】 【出沒時】 威嚇追い払い【方策7】
	(累計)		21頭(28%)	36頭(48%)	50頭(67%)	50頭(67%)		
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。	0件	0件	1件	0件	1件	0件		【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2、6、32、35、37】 【出沒時】 出沒情報の提供、問題個体の捕獲【方策1、8】
	(累計)			1件	2件	2件		
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	12件	13件	4件	10件	16件	5件		【平時】 利用者への普及啓発【方策9、10、14、23、24、S19】 【出沒時】 -
	(累計)			14件	30件	35件		
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	10件	1件	10件	13件	9件	0件		【平時】 地域住民への普及啓発（情報交換会、学校での普及啓発等） 【方策2、6、32、35、37】 【出沒時】 -
	(累計)			23件	32件	32件		
⑤市街地（ゾーン4）への出沒件数を半減させる。	210件	60件	96件	84件	136件	19件		【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り、誘引物の除去 【方策2、6、32、35、37】 【出沒時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲【方策7、8】
	(累計)			180件	316件	335件		
⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する。（注5、6）	4,652千円 523 a (5年平均)	5,524千円 609 a	8,727千円 852a	5,180千円 557 a	6,127千円 561a	未集計		【平時】 電気柵の整備、農業者向け普及啓発【方策6、32】 【出沒時】 問題個体の捕獲【方策8】
⑦漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例の発生件数を半減させる。	2件	0件	3件	4件	1件	0件		【平時】 漁業者向け普及啓発【方策32】 【出沒時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲【方策7、8】
	(累計)			7件	8件	8件		
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。	-	-	-	-	-	-		【平時】 普及啓発【方策9、12、14、23、32、S19】 【出沒時】 -

（注4）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。

（注5）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画（H27-29）より引用したもの。なおH30-R2以降の防止計画では目標を3割から1割減に下方修正している。

（注6）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

（注7）③～⑧において基準とする年度及びそれらの達成状況を測るための年度については、それぞれの値の変動状況等を踏まえつつ、適切な設定を行う。

（注8）平成28年度知床半島ヒグマ保護管理方針検討会議 資料1-2から算出。

（注9）平成28年度知床半島ヒグマ保護管理方針検討会議 資料1-3、ヒグマ対応件数のゾーン別・行動段階別集計から算出。

知床半島ヒグマ管理計画目標である①～⑧のうち、数値目標が設定されていない⑧以外について2019（令和元）年（確定版）および2020（令和2）年（速報版）の状況を以下に記した。

①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする

- ・2019年の3町におけるヒグマの人為的死亡個体の内訳は、メスが14頭、オスが32頭であった（表1）。
- ・2020年4月から6月の期間において、ヒグマの人為的死亡個体の内訳は、メスが0頭、オスが3頭（斜里1頭、羅臼2頭、標津0頭）であった（表2）。

表1. 2019年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	3	0	0	2	0	0
1歳	1	0	0	5	3	1
2歳	1	0	0	2	2	1
3歳以上	5	3	1	9	5	2
小計	10	3	1	18	10	4
合計	14			32		

表2. 2020年4月から6月における、ヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	0	0	0	0	0	0
1歳	0	0	0	1	0	0
2歳	0	0	0	0	0	0
3歳以上	0	0	0	0	2	0
小計	0	0	0	1	2	0
合計	0			3		

②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロにする

- ・2019年はヒグマによる人身事故が斜里町で1件(表3)。羅臼町、標津町においては人身被害なし。
- ・2020年4月から6月の期間において、ヒグマによる人身事故は発生しなかった。

表3. 2019年 斜里町 ヒグマによる人身事故の詳細

No.	日付・場所	状況概要
1	4月16日 斜里町	峰浜地区において、ヒグマ対策技術者育成のために捕獲に従事している猟友会のハンター1名が、現場の下見中に単独亜成獣のヒグマに襲われた。ハンターは当該ヒグマをその場で捕獲、自力で救助を要請した。

③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる

- ・2019年は斜里町で16件。羅臼町、標津町においては発生しなかった(表4)。
- ・2020年4月から6月の期間において、利用者の問題行動に起因する危険事例は5件発生した(表5)。

表4. 2019年 利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細

No.	日付・場所	状況概要
1	5月4日 斜里町	岩尾別道道脇にヒグマが出没。道路脇で滞留するヒグマを撮影するために、車両5台ほどが停車、5~10人が降車し撮影する事例が発生。
2	5月4日 斜里町	町道岩尾別の法面にヒグマが出没。道路脇に椅子をおいてヒグマを観察する人がいると情報が寄せられる。車両10台ほどが停車し、渋滞が発生していた。
3	5月5日 斜里町	町道岩尾別の道路脇にヒグマが出没。観光客2名が降車し撮影する事例が発生。
4	5月5日 斜里町	町道岩尾別の道路脇にヒグマが出没。10人が降車し、道路から撮影する事例が発生。
5	5月5日 斜里町	町道岩尾別の道路脇に出没したヒグマに利用者が1mほどまで接近し撮影する事例が発生。
6	5月12日 斜里町	町道岩尾別の道路脇にヒグマが出没し、撮影しようとヒグマを追いかける利用者がいたとの情報が寄せられる。
7	5月12日 斜里町	町道岩尾別にヒグマが出没。車3台が停車し、1名が近距離で降車していたとの情報が寄せられる。

No.	日付・場所	状況概要
8	5月12日 斜里町	町道岩尾別の法面にヒグマが出没。車2台が駐車し、内1名が約10mの距離で観察する事例が発生。
9	5月12日 斜里町	温泉道路分岐付近にてヒグマが出没。複数の車から複数人が降車して、ヒグマから約10mの距離で撮影する事例が発生。
10	8月21日 斜里町	国道幌別の法面にいる1歳2頭連れ親子を観察するために、渋滞が発生。10mほどの距離から降車し観察する事例が発生。
11	8月30日 斜里町	町道岩尾別沿いでヒグマを追いかけてまわし、撮影する利用者が確認される。
12	8月30日 斜里町	国道幌別沿いに出没した2頭連れ親子ヒグマを観察するために、渋滞が発生。母グマが真横に停めた車両に対しブラフチャージをする事例が発生。
13	9月8日 斜里町	岩尾別川で魚を捕食するヒグマに対し、徒歩で接近し撮影する複数の利用者が確認される。
14	9月11日 斜里町	岩尾別川で、ヒグマが出没している河川の橋の上に大多数の人が集まり、混乱状態になる事例が発生。交通事故の危険性があった。
15	9月15日 斜里町	岩尾別川に出没したヒグマを撮影するため、利用者が10名以上滞留、橋の上に30台以上の車が停車し、渋滞発生。近距離でヒグマを撮影する利用者也確認される。
16	9月20日 斜里町	岩尾別川に出没したヒグマを、川へ降りて近距離で撮影する利用者が確認される。

表5. 2020年4月から6月にかけて発生した利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細

No.	日付・場所	状況概要
1	4月16日 斜里町	幌別国道沿いで1歳2頭連れの親子グマが出没し、利用者が20mほどの距離から撮影。
2	5月12日 斜里町	幌別国道沿いの林内に1歳2頭連れの親子グマが出没し、滞留。利用者が降車して2時間程撮影を続け、コグマ1頭に威嚇突進される。
3	5月24日 斜里町	幌別道道沿いで0歳1頭連れ親子グマが出没し、渋滞が発生。降車し、至近距離から撮影する利用者もいた。
4	6月16日 斜里町	幌別国道沿いで1歳2頭連れの親子グマが出没し、カメラマンが降車して近距離から撮影。
5	6月30日 斜里町	岩尾別道道沿いに単独のヒグマが出没。利用者が車をヒグマの真横に停車させ、降車する。

④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例を半減させる

- ・2019年は羅臼町で9件。斜里町、標津町においては地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は発生しなかった（表6）。
- ・2020年4月から6月の期間において、地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は発生しなかった。

表6. 2019年 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

No.	日付・場所	状況概要
1	7月19日 羅臼町	春日町の水産加工場で物置の扉が壊され、中に保管していた加工残渣をヒグマに食べられた。
2	7月27日 羅臼町	峯浜町でヒグマに飼い犬を食べられた（2019年度2件目）。
3	8月3日 羅臼町	春日町でヒグマに飼い犬を食べられた（2019年度3件目）。
4	8月8日 羅臼町	麻布町の運送会社で水産加工残渣運搬用のトラックが2日連続でヒグマによって破壊された。
5	9月4日 羅臼町	八木浜町の住宅で1階部分カーポート内に置いていた生ごみがヒグマに食べられた。ヒグマは逃走し、捕獲には至らなかった。
6	9月5日 羅臼町	知昭町で軽トラックの荷台に乗るヒグマが目撃された。前日の夜間には、同トラックの荷台に積んでいた魚がヒグマに食べられていた。
7	9月10日 羅臼町	岬町で住宅前に置いてあった生ごみが入ったポリバケツを壊そうとしているヒグマが目撃された。ヒグマは住民によって追い払われた。
8	9月30日 羅臼町	共栄町で住宅裏の海側を歩いているヒグマが目撃された。目撃地点で不法投棄生ごみが確認された。
9	10月25日 羅臼町	岬町の海岸を移動するヒグマが目撃された。ヒグマは投棄された生ごみを食べていたためその場で捕獲した。

⑤市街地（ゾーン4）への出沒件数を半減させる

- ・2019年は、3町合計で136件の市街地出沒を確認。そのうち、約9割（124件）が羅臼町であった。各町の出沒状況の概要は以下のとおり。
- ・2020年4月から6月の期間において、市街地への出沒が斜里町で1件、羅臼町で18件あった。標津町では発生しなかった。

■斜里町

2019年 5件

ウトロに設置されているU字型の市街地柵内で4件、斜里町役場のある本町に近い小学校で1件、計5件の出沒があった。いずれのケースも人為的な食べ物に餌付いていた状況は確認されなかった。

2020年 1件

4月から6月の期間において、ウトロに設置されているU字型の市街地柵内で1件の出沒があった。人為的な食べ物に餌付いた状況は確認されなかった。

■羅臼町

2019年 124件

海岸沿いの住宅裏山斜面等でヒグマの出沒が多々あった。

2020年 18件

4月から6月の期間において、住宅裏山斜面等でヒグマの出沒が18件あった。

■標津町

2019年 7件

7件すべて標津川を移動経路にしてヒグマが市街地侵入したケースであった。特に6月下旬から7月にかけて頻繁に発生した。

2020年 0件

4月から6月の期間において、市街地（ゾーン4）での出沒は確認されなかった。

⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する

2019年の斜里町における農作物被害は6,127千円、561a。電気柵の導入を行っている農地（ウトロ高原等）では被害が軽減している。ハンターによる農地のパトロール時間は平年並みだが、農地での駆除頭数は24頭であり、2018年（7頭）より17頭も多かった。

<参考>

- ・羅臼町については農業被害なし。
- ・標津町については、昨年度に引き続きヒグマによるデントコーン被害が発生しているが、作付け自体が減少したため、被害も減少。また、牧草ロールやデントコーンサイレージが荒らされる被害も報告された。どちらも被害額の集計は行われていない。

⑦漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例の発生件数を半減させる

- ・2019年は斜里町で1件。羅臼町、標津町においては漁業活動に関する危険事例は発生しなかった（表7）。
- ・2020年4月から6月の期間において、漁業活動に関する危険事例は発生しなかった。

表7. 2019年 漁業活動に関する危険事例の詳細

No.	日付・場所	状況概要
1	7月24日 斜里町	蛸岩で海上の定置網にてヒグマが目撃され、網への被害も確認される事例が発生。

ヒグマに関する危険事例・注意事例の定義

1. 危険事例について

【危険事例の定義】

ヒグマによる人身事故につながる可能性の高い事例、経済被害（農業被害を除く）を伴う事例を危険事例とする。

- 人身事故は危険事例に含めない。
- ヒグマを見物するための渋滞（クマ渋滞）に関する交通事故は含めない。
- 軋轢の順位は、人身事故＞危険事例＞注意事例。注意事例については後述。危険事例や注意事例はヒヤリハット事例を想定する。

【危険事例の分類】

危険事例は以下の3種に分類される。

種類	内容
A	人の問題行動に起因する危険事例
B	人にもヒグマにも非がない危険事例（シチュエーションが危険）
C	ヒグマの問題行動による危険事例

- 「人の問題行動」は知床半島ヒグマ管理計画に記載された、目標③利用者・地域住民による問題行動のうち、「悪質」または「非常に悪質」と位置付けられた行動（餌となるものの管理の不徹底、ヒグマへの接近（ヒグマとの距離の目安は 30m 程度）や追い回し、餌付け等）とする。また、「不適切」と位置づけられた行動であっても、注意を受けているにも拘わらず対応を怠るという行動も含む。
- 「ヒグマの問題行動」は、行動段階 1+や2、3にあたる行動とする。
- そのほかに危険事例（A～C）に繋がる可能性の高い事例（カテゴリーD、注意事例）が存在する。

【危険事例の具体例】

種類	具体例
A	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が車内からヒグマに餌付けをした ・カメラマン 9 名が車外で、至近距離からヒグマの撮影をしていた ・釣り人が放置していた荷物をヒグマに荒らされた ・家畜や飼育されていたヤギ・犬がヒグマによって食害された(注意喚起後対策を怠ったことで発生) ・夜間、軒先に干しておいた魚をヒグマに奪われた
B	<ul style="list-style-type: none"> ・知床峠を走行中のサイクリストがヒグマに追いかけられた ・森を散策中にヒグマと至近距離で遭遇し、ブラフチャージされた ・停車中の有人車両にヒグマが 2~3mにまで接近した ・登山者にヒグマが 5mにまで走り寄ってきた ・牧場主が牧場入口でヒグマ親子連れと遭遇。ヒグマは人を気にせず向かってきた ・住宅地(ゾーン4)にヒグマが侵入、人とヒグマが近距離で遭遇した。 ・誘引物(シカや海獣類の死体など)に餌付いた状態のヒグマに人が近距離で遭遇した <p>【出会い頭の遭遇、ゾーン4で人とヒグマが近距離で遭遇など】</p>
C	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜や飼育されていたヤギ・犬がヒグマによって食害された(初回または行動がエスカレート) ・遊歩道を散策中、利用者がヒグマから追跡された ・漁業番屋のトイレをヒグマが破壊した

2. 注意事例について

【注意事例の定義】

その時点では即危険と言えないものの、状況が進行すれば危険事例に繋がりがねない事例を注意事例とする。

【注意事例の具体例】

種類	具体例
D	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地(ゾーン4)にヒグマが侵入するが、人との遭遇がない(夜間に侵入して出ていった場合など) ・住宅地の側溝に大量の魚の残滓が投棄された(ヒグマは餌付いていない、もしくはヒグマは夜間のみのお出でで人との遭遇がない)